

令和元年度全国高等学校教育改革研究協議会
令和元年10月23日（水）

「高校改革 ～夢に挑戦する学び～」について

- I 実施方針の内容
- II 地域の協議会
- III 地域との連携・協働

長野県教育委員会

I 「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」の内容について

すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現

新たな学びの推進

方針
1 全ての高校が
新たな学びへ転換

方針
2 多様な学びの場、
学びの仕組を整備充実

方針
3 新たな学びにふさわしい
環境を整備

再編・整備計画

方針
4 さらなる少子化の進行に
的確に対応

方針
5 多様な学びの場を
全県に適切に配置

方針
6 地域での検討を踏まえて
「再編・整備計画」を確定

方針1

新たな学びの推進

すべての高校が、これからの時代に必要とされる力を生徒に育む新たな学びに転換します。

各校の学びを体系的に示す「3つの方針」の策定

カリキュラム・マネジメント

方針1

育てたい生徒像（学校目標）

「生徒育成方針」

卒業までに生徒にどのような力をつけるのかを示したもの

「教育課程編成・実施方針」

生徒につけたい力のために、学校全体として教育活動をどのように展開するのかを示したもの

「生徒募集方針」

入学を希望する生徒へのメッセージとして、どのような生徒の入学を待っているか、どのような学校でどのような学びができるかを示したもの

**夢に挑戦できる多様な学びの場、
学びの仕組を整備充実します。**

県立高校「未来の学校」構築事業

方針2

卓越した探究的な学びを推進する高校

大学・研究機関等と連携して、現代の最先端の学問分野を視野に入れた卓越した探究的な学びを創造することにより、研究に対する意欲と目的意識、社会貢献に対する高い志と広い視野を育む。

信州に根差したグローバルな学びを推進する学校

世界の諸課題を自分の住んでいる地域と関連づけながら、大学や学校外の団体等と協働して、社会変革や新たな価値を生み出すことにつながる課題解決型学習(PBL)を推進する。

国際的な教育プログラムを研究する高校

国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためにプログラムを構築する。

高度な産業教育を推進する高校

独創性の開発や長期インターンシップなど、高校入学から上級学校等までの一体的で一貫した実践的教育プログラムを開発し、地方創生に資する高度な専門性や創造性を育む。

少人数学級を推進する高校

学級規模を縮小し、生徒数に応じた新たな学びや指導のあり方とその有効性について仮説を設定して検証するとともに、学校運営のあり方についても研究する。

その他の研究校

現在の教育課題の解決を目的として、既存の考え方にとらわれない発想で、学校や地域の特長・魅力を活かし、多様で柔軟な学びの仕組みを創造する。

**新たな学びにふさわしい環境を整備
します。**

新たな学びにふさわしい環境を整備

方針3

ICT環境の充実

- 電子黒板、タブレット端末等
- ICT支援員
- 統合型校務支援システム

外部人材・専門人材の活用

- 外部人材(地域、産業界、大学等)
- カリキュラムコーディネーター
- 専門人材(SC, SSW, 部活動指導員等)

教員の資質向上

- 「探究的な学び」リーダー教員の養成
- 県内外の先進校への視察
- 教育機関等への派遣研修

学習環境・生活環境の整備

既存校

老朽化対策

統合新校

新たな学習・生活空間

すべての学校

エアコン、洋式トイレ等整備

**さらなる少子化の進行に的確に対応
します。**

少子化の進行

- 都市部存立普通校
- 都市部存立専門校

- 中山間地存立校
- 中山間地存立特定校

できる限り早期に
新しい時代に
ふさわしい
新しい学校を設置

魅力的な
学びの場の創造

「都市部存立校」の再編基準について

	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
都市部 存立 普通校	6学級以上	在籍生徒数 520人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止
都市部 存立 専門校	3学級以上	在籍生徒数 280人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止

「中山間地存立校」の再編基準について

望ましい規模
(募集学級数)

再編対象

中山間地
存立校

3学級以上

在籍生徒数120人以下、もしくは、
在籍生徒数160人以下、かつ、
卒業生の半数以上が入学している
中学校がない状態が、2年連続

- ① 他校との統合
- ② 地域キャンパス化
- ③ 中山間地存立特定校の指定
- ④ 募集停止

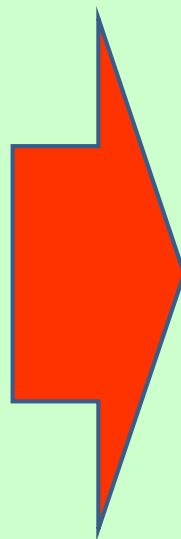
多様な学びの場を全県に適切に
配置します。

再編整備計画

地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討

高校配置

- ・地理的な条件や通学の
利便性に配慮
- ・地域の子どもたちを地域
で育てる観点



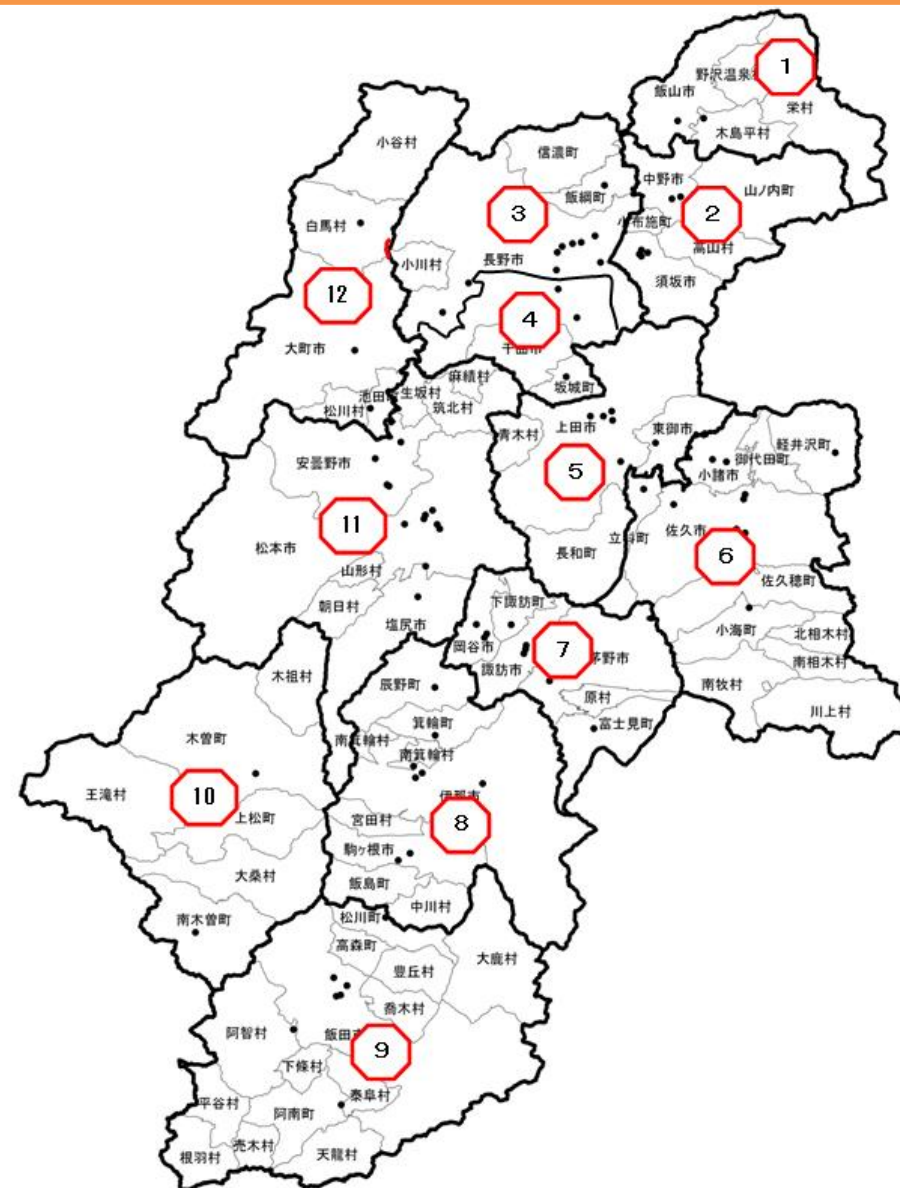
実質的な生活・通学
圏域である
旧12通学区単位を
基本に検討

地域での検討を踏まえて「再編・整備計画」を確定し、再編を実施し、再編を実施しない既存校も含めて計画的に整備を進めます。

旧12通学区単位に

再編整備計画を策定して

既存校を含め計画的に整備
を進める

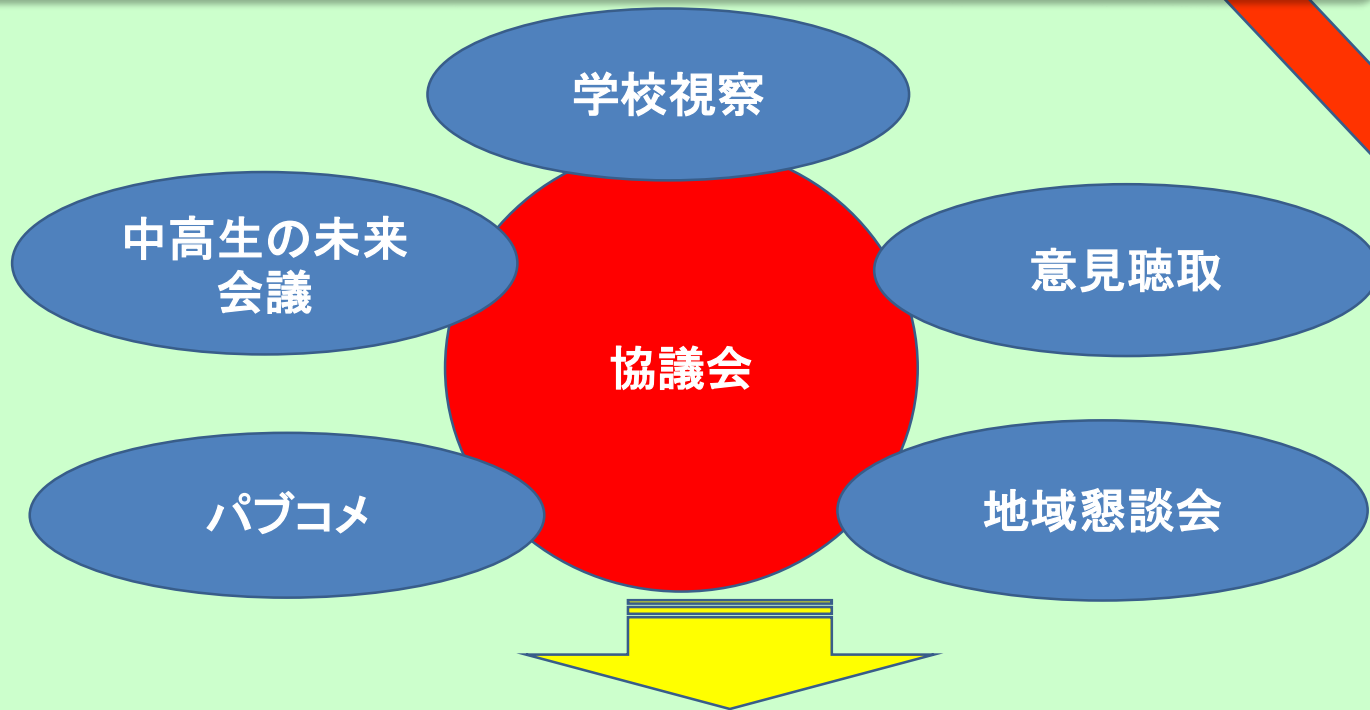


Ⅱ 「高校の将来像を考える地域の協議会」について

- 設 置 全ての旧12通学区に設置
- 設置目的 旧通学区内の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な高校の配置について、県教育委員会に対して意見・提案を行う。
- 構 成 員 市町村長、市町村教育長（または教育委員長）、産業界から選出された者（以上必須）
- 意見・提案の取り扱い 県教育委員会は、協議会の意見・提案を踏まえた上で、全県的視野に立ち、総合教育会議での議論を経て、総合的に判断する。

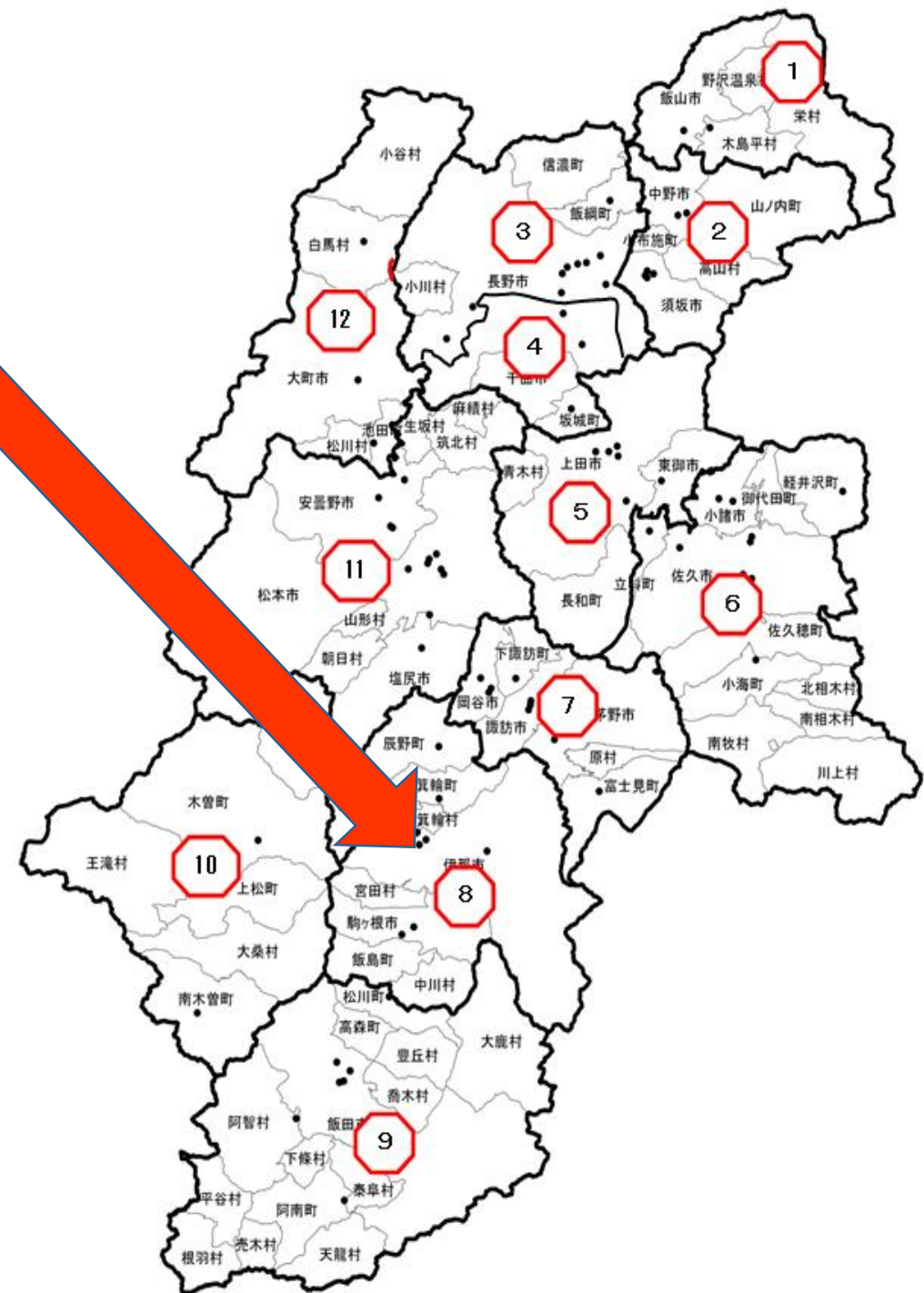
地域の協議会について

「上伊那地域の高校の将来像を考える協議会」



地域の意見の丁寧な聞きとりによる議論の積み上げ

県教育委員会へ「意見・提案」提出



「高校改革 ～夢に挑戦する学び～」のスケジュール

想定時期	プロセス
2017年11月	「県立高校『学びの改革 実施方針』策定に向けて」
2018年3月	「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針(案)」
9月	「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」
2019年9月	すべての地区で「高校の将来像を考える地域の協議会」を設置完了
2020年3月	「再編整備計画（一次分）」策定
2021年3月	「再編整備計画」確定
	高校改革は地域振興や県発展の大きな礎であると捉えて、教育委員会のみならず県の組織全体で取り組みます。
2030年3月	長野県の高校教育が変わる 長野県が変わる

Ⅲ 地域と連携・協働による新しい学校づくり ～長野県白馬高校～

経緯

- 平成25～26年度
平成27年6月
- ・全校生徒が147名に減少、再編基準に該当
 - ・教育委員会定例会「白馬高等学校の学科設置について」（国際観光科設置）審議、了承
 - ・「白馬高等学校に関する連携協定書」調印式

平成28年4月 国際観光科 第1期生入学
平成31年3月 同 第1期生卒業

普通科 2クラス

普通科 1クラス
国際観光科 1クラス

平成28年6月 第1回白馬高校学校運営協議会 → コミュニティ・スクール

2019年度「地域との協働による高等学校 教育改革推進事業(地域魅力型)指定

1 研究テーマ

『世界水準の山岳リゾートHAKUBA
の学びの循環サイクルの構築』

2 生徒に習得させる具体的な能力

課題解決能力

協働性

コミュニケーション力

3 魅力づくり

白馬SDGsラボ
～地域の人々と学び、
実践する場～

白馬コンソーシアム
＜学びのサポーター＞
＜地域のサポーター＞
＜グローバル教育＞



長野県白馬高等学校
Hakuba High School

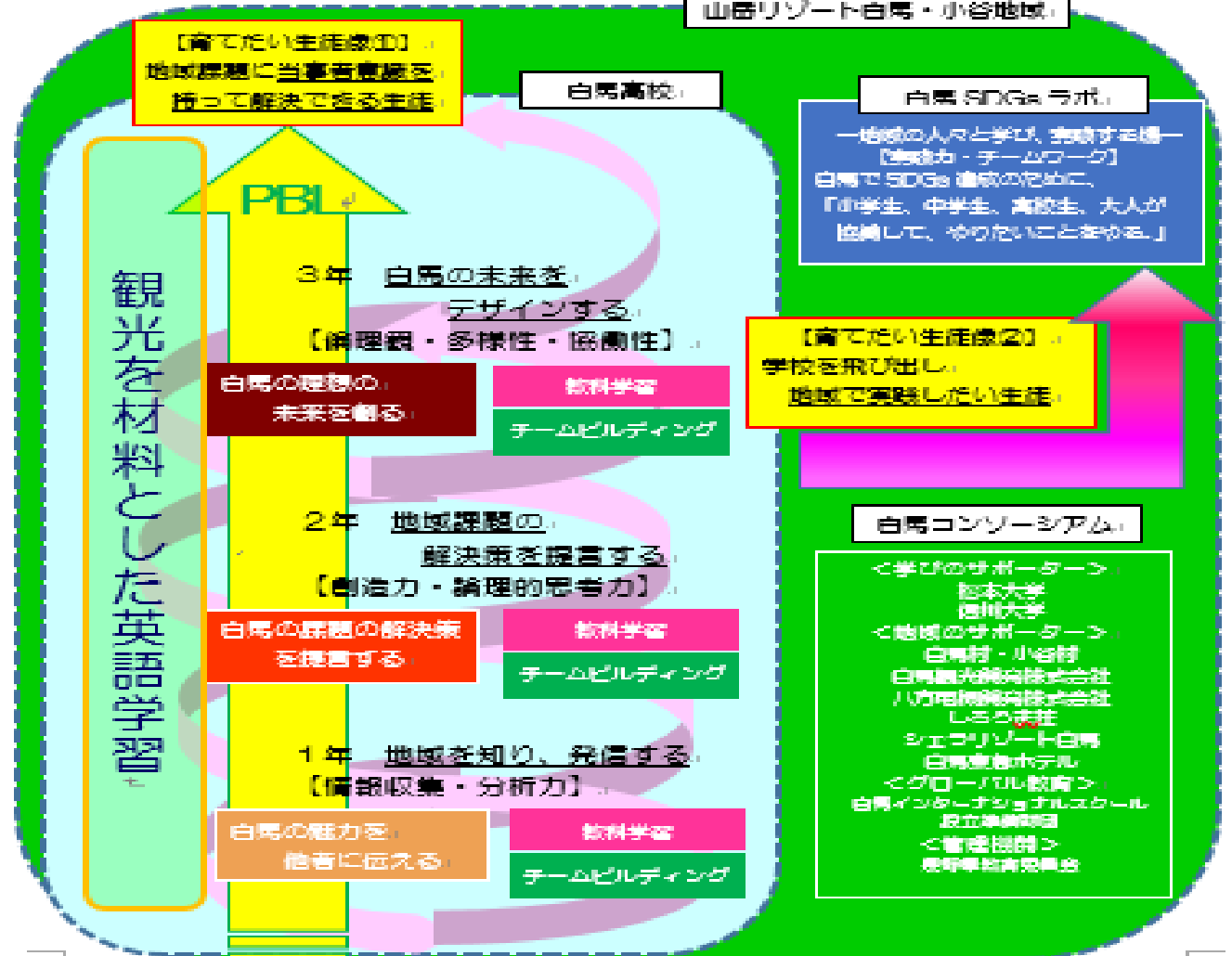


世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築。

白馬高等学校

地域と協働した学びにより白馬で成長した生徒が、この地域を支え、あるいは世界を舞台に活躍し、その姿を見た生徒がまた白馬に戻り、そのような好循環を永続的に生み出せる学校。

山岳リゾート白馬・小谷地域



2019年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」に指定

取組み内容

(1) PBLの実践を通してのカリキュラム、アセスメント開発

(2) 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬SDGsラボ」の設置

(3) 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置

地域による支援

1 全国募集を支える寮の整備

- ・ 管理人の配置
- ・ 学習スペースの設置と学習講師

2 進路保障への支援

- ・ 公営塾「しろうま學舎」

3 授業への支援

4 クラブ活動への支援

H28～H31(R元)
県外からの
入学生

年度	人数
H28	13
H29	18
H30	15
H31(R元)	22

R元年度
入寮人数

学年	男子	女子	合計
1年	13	11	24
2年	15	11	24
3年	16	6	22

R元年度
公営塾
「しろうま學舎」
通塾状況

学年	男子	女子	合計
1年	13(8)	17(7)	30(15)
2年	9(7)	15(8)	24(15)
3年	3(2)	6(3)	9 (5)
計	25(17)	38(18)	63(35)

成果

多様な進路状況

年度	学科	性別	進学(72.8%)				就職(20.0%)			合計		
			大学 (41.4%)	短大 (4.3%)	専門 (27.1%)	小計	県内 (15.7%)	県外 (4.3%)	小計		家居等 (2.8%)	その他 (4.3%)
H30	普通科	男	5	1	3	9	8	1	9	0	0	18
		女	3	2	10	15	1	0	1	1	0	17
		計	8	3	13	24	9	1	10	1	0	35
	国際観光科	男	11	0	3	14	2	1	3	1	1	19
		女	10	0	3	13	0	1	1	0	2	16
		計	21	0	6	27	2	2	4	1	3	35
		合計	29	3	19	51	11	3	14	2	3	70

年度	学科	性別	進学				就職			合計		
			大学	短大	専門	小計	県内	県外	小計		自営家居	その他
H27	普通科	男女計	15	2	14	31	18	1	19	1	1	52
H28	普通科	男女計	12	1	15	28	16	1	17	2	0	47
H29	普通科	男女計	10	7	16	33	18	1	19	3	4	59

高校生ホテル

国際観光科2年生が地元ホテル「しろうま荘」で企画、受付、ガイド、接客全てを自分たちで行う、1泊2日限定の『高校生ホテル』14組30名のお客様が宿泊！



一流のホテルで自分たちの力だけで業務を遂行！



各種メディアにも取り上げられ、全国に白馬高校をアピール！



デュアル実習協定書調印式

仕事に対する意欲や意識が高められたり、AO入試等で実際の体験談として自己PRの際の自信を深められるデュアルシステムによる仕事のトレーニング。



調印式の様子

シェラリゾート白馬体験学習



ホール体験



キッチン体験

選択科目「観光Ⅱ」の校外学習として「ホテルシェラリゾート白馬」にて、実際に料理を食べ、給仕係の体験をすることで、食器の並べ方・料理の出し方、食事の作法等を学ぶ。

地域資源を活用したアクティブラーニング

恵まれた地域資源を活かした文化活動により、人間味あふれ、幅広い知識と教養を身につけるためのアクティブラーニングを実施。



中央アルプス巡検

白馬高校では
毎日が
アクティブラーニング



教室を離れて、
白馬を知る、信州を知る、
日本を知る、そして世界を知る

カフェでの実習



奈良井宿での野外授業



山岳同好会、燕岳登山

グローバル講演会



地域人材によるグローバル講演会。
(元モーグル日本代表の上村愛子さん)

